

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

4月18日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。調査結果を分析しましたのでお知らせします。

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この調査は小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。

内容は教科に関する調査（小学校 国語・算数、中学校 国語・数学・英語）と質問紙調査（基本的生活習慣、学習習慣、学習環境等）です。

市内小中学校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

1 教科に関する調査（国語 算数・数学 英語）について

（1）全体の結果と状況 指導改善のポイント

	市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等
算数・数学	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等
英語		県平均を下回る

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているため、それに従って表記しています。

《 小学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

① 出題の趣旨

3つの大問と14の小問が出題されました。「情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるか」「目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか」「話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるか」に関して問う問題が出題されました。

調査問題

- 1 米作りについて解説する文章を書く
- 2 複数の本や資料を読み、自分の考えをまとめる（運動と食事）
- 3 学校ボランティアにインタビューをする

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

② 指導改善のポイント

《 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実 》

文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。複数の資料を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既存の知識などに結び付くことを考えたりしながら、自分の考えをまとめることが大切である。

《 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実 》

自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切である。必要に応じて、授業者が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるように指導すると効果的である。

《 小学校 算数 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

① 出題の趣旨

4つの大問と16の小問が出題されました。「日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について考察できるか」「基本的な図形の内容や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察できるか」「数量の関係に着目して問題場面を解釈し数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすることができるか」「日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を捉えることができるか」に関して問う問題が出題されました。

調査問題

- 1 伴って変わる2つの数量の関係について考察する（椅子）
- 2 図形の構成の仕方を観察して図形について判断する（テープ）
- 3 日常の事象を数的に捉え数学的に表現・処理する（分配法則）
- 4 目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりする（運動調べ）

- 一の位が0の2つの2位数について、乗法の計算をすることができる。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。
- （ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる。
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
- 伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。
- 百分率で表された割合について理解している。

② 指導改善のポイント

《 伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする指導の充実 》

伴って変わる2つの数量について、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることが重要である。

《 百分率で表された割合について理解できるようにする指導の充実 》

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。

《 中学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

① 出題の趣旨

4つの大問と15の小問が出題されました。「目的をもってインタビューをする場面において、目的や場面に応じて質問する内容を検討したり、意見と根拠など情報と情報との関係について理解したりすること等できるか」「目的に応じて複数の文章を読む場面において、事象や行為、心情を表す語句について理解したり、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えたりすること等できるか」「調べたことなどをレポートにまとめて書く場面において、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えたり、文脈に即して漢字を正しく書いたりする等できるか」「古典の原文と古典に解釈を加えて現代語で書いた作品とを読み比べる場面において、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えたりする等できるか」に関して問う問題が出題されました。

調査問題

- 1 インタビューをする（社会で働く上で大切なこと）
- 2 説明的な文章を読む（本の読み方）
- 3 レポートを書く（「判じ絵」）
- 4 古典を読む（「竹取物語」）

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。

○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。

○聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。

○文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

●観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができる。

●話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができる。

●文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

② 指導改善のポイント

《 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実 》

文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分が持っている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的で明確なものにしていくことが重要である。その際、本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り自分の考えを広げたり深めたりする読書の意義や効用についても理解が深まるように指導することが効果的である。

《 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する指導の充実 》

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

《 中学校 数学 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

① 出題の趣旨

9つの大問と15の小問が出題されました。「自然数の意味を理解しているか」「数と整式の乗法の計算ができるか」「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているか」「反比例の意味を理解しているか」「累積度数の意味を理解しているか」「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか」「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか」「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるか」に関して問う問題が出題されました。

調査問題

- 1 自然数
- 2 文字を用いた式の四則計算
- 3 空間図形
- 4 反比例
- 5 累積度数
- 6 構想を立てて説明し、問題解決の過程や結果を振り返って考えること（整数の計算）
- 7 データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（黄葉日）
- 8 日常的な事象の数学化と問題解決の方法（駅伝）
- 9 平行線や角の性質を基に、図形を考察すること（合同な2つの三角形と平行線）

○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

○自然数の意味を理解している。

●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。

●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

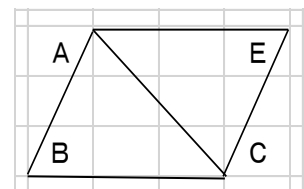
●結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。

② 指導改善のポイント

《 構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現する活動の重視 》

本設問を使って授業を行う際には、2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるとといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。

例えば、直線BCと直線AEが平行になることを証明するためには、錯角である $\angle BCA$ と $\angle EAC$ が等しいことを示せばよいと考え、そのためには仮定である $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ が合同であることを基にすればよいといった証明の方針を確認することが考えられる。その上で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ から合同な図形の対応する角は等しいことを根拠として $\angle BCA = \angle EAC$ を示し、平行



線になるための条件「錯角が等しい2直線は平行である」を根拠として、結論である「 $BC \parallel AE$ 」を示すことができるようにすることが大切である。

《 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実 》

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、追いつく地点は2つのグラフの交点のy座標に表れることを確認し、グラフの交点のy座標を読み取ればよいことなど問題解決の方法について説明できるようにすることが大切である。

《 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の重視 》

予想した事柄である「はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる。」が成り立つことを説明するために、計算結果を表した式を「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。

《 中学校 英語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

① 出題の趣旨

10つの大問と17の小問が出題されました。「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるか」「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるか」「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるか」「日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることができるか」「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、それに対する自分の考えとその理由を書くことができるか」「文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるか」「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるか」に関して問う問題が出題されました。

また、「話すこと」として「即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う」「説明を聞いて、考えとその理由を話す」問題が出題されました。

調査問題

- 1 道案内等の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
- 2 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する。
- 3 バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する。
- 4 水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する。
- 5 ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。
- 6 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する。
- 7 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。
- 8 ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する。
- 9 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。
- 10 学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。

【話す】

- 1 留学生のために動物園へ行くことになった。会話が続いていくように、質問に答えたり、考えを伝えたりする。
- 2 環境問題についての留学生のプレゼンテーションを聞いて、考えと理由を英語で伝える。

○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。

○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。

○情報を正確に読み取ることができる。

○「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。

●情報を正確に聞き取ることができる。

●社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。

●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。

●やり取りの場面において、即興で伝え合うことや考えとその理由を述べ合うことができる。

●発表の場面において、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる。

② 指導改善のポイント

《 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る指導の充実 》

話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。指導に当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上でそれらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。

《 聞いたり読んだりしたことについて、生徒自身の考えを述べる指導の充実 》

日頃の授業から聞いたり読んだりしたことを基に生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会を設定することが大切である。話されたり書かれたりした英文について、内容を確認するだけでなく、その内容と関連させて生徒自身のことを尋ねたり、内容に対する生徒の考えを尋ねたりすることが考えられる。これらのことを継続的に行うことで、生徒が自分の考えをもち、それを述べる機会を充実させる。また、様々な言語活動を行う際に、自分の考えだけではなく理由を考えさせたり、必要に応じて生徒の発話に対して理由を尋ねたりすることなどを継続的に指導することが必要である。

(2) 評価の観点と問題形式、無回答について

評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」、問題形式は「選択式」「短答式」「記述式」となっています。

評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」の問題において、苦手傾向があり、また無回答率が高い傾向があります。(これは県内・全国的にも同様の傾向です)

無回答率が高かったのは、小学校国語では「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」問題です。

小学校算数では「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」問題です。

中学校国語では「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」問題です。

中学校数学では「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明する」問題です。

中学校英語では「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」問題です。

(3) 今後の取組

低学年から図鑑や本に親しみ、新聞等の図や表を比べて自身の意見を持ち、発信する活動を行うことが大切です。算数・数学においても式・表・グラフ等を書くことだけでなく、口頭で説明する対話的な授業、文字で書き表す活動をより多く授業の中で行っていくことが大切です。

学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等の授業改善を行っています。「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する（読書の時間等も含まれている）時間を設定してはいますが、その充実をなお一層図っていく必要があります。全般的に文章の読解力向上が課題となっています。

市内小中学校では、それぞれの課題を克服するための独自の取組があります。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようと努力しています。